

精神看護学実習

目的：精神に障害をもつ人を総合的に理解し、対象に応じた看護が出来る基礎的能力と、人間を尊重する態度を養う。

精神看護学実習Ⅰ

- 目標
1. 精神の疾患や障害が患者や家族の日常生活にどのような影響を及ぼしているかが理解できる。
 2. 患者のセルフケア能力に応じた日常生活行動の援助ができる。
 3. 対象に必要な社会資源が理解できる。
 4. 患者の人権保護の重要性を理解し、尊重する態度を取ることができる。
 5. 患者-看護師関係の発展過程を通して自己洞察を深め、治療的な関わりができる。
 6. 疾患の各期の特徴を理解し、継続看護について考えることが出来る。
 7. 精神看護に向けて主体的に学ぶ取り組みができ、自己の課題を明確にできる。

精神看護学実習Ⅱ

- 目標
- 1：地域で活動する場を見学し、保健医療福祉チームのメンバーとの連携と看護職の役割が理解できる。
 - 2：精神看護に向けて主体的に学ぶ取り組みができ、自己の課題を明確にできる。

実習構成 3単位 120時間 精神看護学実習Ⅰ（2単位90時間）精神看護学実習Ⅱ（1単位30時間）

実習名	実習施設			内容
精神看護学実習Ⅰ	三芳の森病院	看護過程の展開	8日間	病棟実習
	埼玉精神神経センター	スーパー救急見学実習	1日	病院見学実習
精神看護学実習Ⅱ	近隣の通所施設	地域の活動の場を見学	3日間	施設見学実習

実習内容

精神看護学実習Ⅰ

- 目標1. 精神の疾患や障害が患者や家族の日常生活にどのような影響を及ぼしているか理解できる。

行動目標	実習内容
1. 疾患の病態生理、症状、治療、看護が理解できる。	・病態関連図が書ける。 ・対象に起こっている妄想・幻覚・躁状態・うつ状態・不安などの体験を対象の言動より想像する。
2. 精神科病棟の構造・特殊性が理解できる。	・閉鎖環境、入院形態、処遇、鍵管理、事故防止、事故発生時の対処災害時の対処等をオリエンテーションや病棟実習より理解する。
3. 各種療法の目的・方法を理解し、対象の反応を考えることができる。	・薬物療法・作業療法・SSTなど事前学習より目的や方法を復習し隣地において対象が実施している各種療法を見学または一緒に参加する。
4. 対象の発達段階について考えることができる。	・カンファレンスにおいて指導者より助言をもらい考えを深める。 ・エリクソン・フロイト・ハヴィガーストを用いて考える。 ・カンファレンスにおいて自分史と照らし合わせながら意見交換する。
5. 言語的・非言語的コミュニケーションを活用し情報収集ができる。	・情報収集の方法はカルテから、指導者や受け持ち看護師からと、病棟行事と一緒に参加したり、離れた距離から観察する方法がある。 ・オレム・アンダーウッド看護モデルを用いる。
6. 対象の健康な部分、日常生活に影響を及ぼしている部	・ストレングス・リカバリ・エンパワーメントに着目する。 ・アセスメントは問題点を探すものと、健康な部分を探し、健康な部分

分をアセスメントできる。 7. 患者を支える家族の問題について考えることができる。	を引き上げていくものの2通りがある。 ・面会状況や対象との会話、指導者の助言、入院時の状況(カルテより)などを参考にし、カンファレンスで理解を深める。
--	--

目標2. 対象のセルフケア能力に応じた日常生活行動の援助ができる。

行動目標	実習内容
1. 対象と共に目標を設定し、個別的で具体的な看護計画を立案することができる。 2. 対象の1日の過ごし方を考慮し、安全に計画が実施できる。 3. 実践した看護を対象の反応から評価・修正することができる。	・各療法への参加、休息時間、薬物療法による作用、夜間の睡眠状態面会時間などを考慮する。 ・患者と相談するなど自己決定を尊重した目標や計画内容にする。 ・実施時は精神症状、薬の副作用、睡眠障害などによる転倒に注意する ・他患者とのトラブルがないよう場所や時間を工夫する。 ・計画書は朝の申し送り後、指導者に提示し確認後実施する。 ・SOAPを用いて記載し、目標の達成度、計画修正を判断し、計画の修正を行う。

目標3. 対象に必要な社会資源が理解できる。

行動目標	実習内容
1. 患者に必要な社会資源について考えることができる。 2. 患者を取り巻く各職種間の連携が理解できる。	・精神看護学概論・保健で学習した範囲を復習し、指導者やPSWの助言を基にカンファレンスで理解を深める。 ・医師(精神保健指定医とその他の医師)、看護師、薬剤師、栄養士、PSW、音楽療法士、作業療法士など、援助の実際を見学したり、指導者の助言を基にカンファレンスで理解を深める。

目標4. 患者の人権保護の重要性を理解し、尊重する態度を取ることができる。

行動目標	実習内容
1. 人権保護を考えた環境の在り方について自分の言葉で表現できる 2. 患者を尊重した態度を取ることができる	・精神看護学概論・保健で学習した範囲を復習(権利擁護・入院形態・入院環境・患者を取り巻く人間関係・患者本人への告知内容と方法、通信面会の制限、医療者のもつ鍵や施錠の意味、法律)し、病棟オリエンテーションや対象との関りから考える。 ・カンファレンスを実施し考えを深める。 ・実習前、実習後の自己の精神疾患や精神障害者、精神病院に対するイメージがどのように変化したかカンファレンスで共有する。 ・患者の安心できる環境の一部として誠実に関わることを意識し、関わった後には振り返る。 ・関りの中で知ろうとする行動(患者のもとに自ら訪室して声を掛ける、患者の意思をたずねる、知るための手立てを指導者や教員に相談する)がとれる。 ・患者のペースを知り合わせながら関わる。

目標 5. 患者-看護師関係の発展過程を通して自己洞察を深め、治療的な関りができる。

行動目標	実習内容
1. 人間関係における自己の感情や行動に気付くことができる。 2. 自己の中に生じた思考や感情を言語化し表現できる。 3. 患者-看護師関係における自己の経験を振り返り治療的な関りについて考えることができる。	・実習中は毎日 1～2 場面をプロセスレコードに起こし指導者や教員に指導を受け、毎日グループで 1 事例プロセスレコード検討会を行う。 ・指導者や教員からの指導、検討会を通して他者の意見をまずは受け入れ客観的に自己を見つめる。 ・検討会を通して自己の関わりの傾向について言語化する。 ・検討会では参加者全員が安心して意見を述べ合うことができるように思考や行動に対する否定や批判をしないよう、精神看護方法Ⅱ講義資料を復習しておく。 ・ヘイズとラーソンの治療的コミュニケーション技法の内容とプロセスレコードを振り返り治療的な関りについて考える。

目標 6. 疾患の各期の特徴を理解し、継続看護について考えることが出来る。

行動目標	実習内容
1. 精神科救急の特殊性と看護の実際が分かる。 2. 各時期の病棟の特徴、看護の実際が分かる。	・オリエンテーションや施設内見学、見学終了時の質疑応答より学んだことを記録用紙にまとめる。

目標 7. 精神看護に向けて主体的に学ぶ取り組みができ、自己の課題を明確にできる。

行動目標	実習内容
1. 講義資料を整理・復習し実習準備ができる 2. 看護学生や看護チームの一員として責任のある行動がとれる。 3. 他者の助言が受けられる。 4. グループにおける自己の役割を意識した行動・言動が示せる。 5. 今後の自己の課題について述べられる。	・精神看護方法Ⅰで学習した疾患・看護の事前学習の範囲を復習し、必要時追加学習を行う。 ・実習 1 日目に本実習の自己の課題と目標を明確にし、実習終了時に振り返りを行う。 ・効果的なカンファレンスを行うために、単なる情報伝達ではなく、体験を共有し、一緒に考え、話し合いを通して理解を深める場であることを意識して参加できる。 ・場や状況に応じた報告・連絡・相談ができる。 ・看護職者としての守秘義務・プライバシーの保護に努められる。 ・患者との体験を通し、看護職者としてよりよく成長していくために何が自分に必要なのかを考え、看護観につなげる。

主な流れ

三芳の森病院実習

1 週	月	火	水	木
時間	8 : 30～17 : 00	8 : 30～17 : 00	8 : 30～17 : 00	8 : 30～17 : 00
AM	病棟オリエンテーション 受け持ち紹介 情報収集	情報収集・アセスメント 看護援助実施(トイレ誘導・洗面・食事介助・作業療法参加)	認知症病棟見学 情報収集・アセスメント 看護援助実施(トイレ誘導・洗面・食事介助・作業療法参加)	情報収集・アセスメント 看護援助実施(トイレ誘導・洗面・食事介助・作業療法参加・入浴介助)
PM	情報収集 15 時～カンファレンスと記録整理	情報収集・アセスメント 看護援助実施(トイレ誘導・洗面・作業療法参加) 15 時～カンファレンスと記録整理	情報収集・アセスメント 看護援助実施(トイレ誘導・洗面・作業療法参加) 15 時～カンファレンスと記録整理	全体像発表 問題点抽出 15 時～カンファレンスと記録整理
2 週	月	火	水	木
AM	P S W講義 (社会資源について) 計画確認後実施 計画実施後は S O A P に記載し計画修正 看護援助実施(トイレ誘導・洗面・食事介助・作業療法参加・入浴介助)	身体拘束・隔離講義 計画実施 計画実施後は S O A P に記載し計画修正 看護援助実施(トイレ誘導・洗面・食事介助・作業療法参加)	計画実施 計画実施後は S O A P に記載し計画修正 看護援助実施(トイレ誘導・洗面・食事介助・作業療法参加)	計画実施 計画実施後は S O A P に記載し計画修正 看護援助実施(トイレ誘導・洗面・食事介助・作業療法参加・入浴介助)
PM	看護援助実施(トイレ誘導・洗面・食事介助・作業療法参加・入浴介助) 15 時～カンファレンスと記録整理	看護援助実施(トイレ誘導・洗面) 15 時～カンファレンスと記録整理	看護援助実施(トイレ誘導・洗面) 反省会 15 時～カンファレンスと記録整理	看護援助実施(トイレ誘導・洗面) 最終カンファレンス 15 時～記録整理 挨拶

埼玉精神神経センター実習

日程	行動内容	備考
事前 30分程度	オリエンテーション	
9:00	学校集合・点呼・移動	保護室見学については空き状況により説明のみとなる
12:30	埼玉精神神経センター（正面玄関脇）に集合、点呼	
13:20	埼玉精神神経センター本館7階会議室集合	
13:30	施設概要・スーパー救急についてのオリエンテーション説明 オリエンテーション終了後グループに分かれて見学 見学終了後会議室に戻り質疑応答	
17:00	見学終了・解散	

精神看護学実習Ⅱ

目標1：地域で活動する場を見学し、保健医療福祉チームのメンバーとの連携と看護職の役割が理解できる。

行動目標	実習内容
1. 利用している対象者の特徴を理解できる。 2. 地域で活動する場の役割を見学を通して述べることができる。 3. 保健医療福祉チームメンバーの役割が説明できる。	- 施設の概要についてオリエンテーションを受け、施設目的、通所メンバーの特徴、プログラムの目的と内容等を確認する。 - メンバーとの関りやプログラムへの参加をする。 - カンファレンスを行い、気づきを明らかにする。

目標2：精神看護に向けて主体的に学ぶ取り組みができ、自己の課題を明確にできる。

行動目標	実習内容
1. 看護学生や看護チームの一員として責任のある行動がとれる。 2. 他者の助言が受けられる。 3. グループにおける自己の役割を意識した行動・言動が示せる。 4. 今後の自己の課題について述べられる。	- 効果的なカンファレンスを行うために、単なる情報伝達ではなく、体験を共有し、一緒に考え、話し合いを通して理解を深める場であることを意識して参加できる。 - 場や状況に応じた報告・連絡・相談ができる。 - 看護職者としての守秘義務・プライバシーの保護に努められる。 - 患者との体験を通し、看護職者としてよりよく成長していくために何が自分に必要なのかを考え、看護観につなげる。

主な流れ

精神看護学実習Ⅱ

作業所見学；2日間

1 日目	実習内容	備考
午前 8：30	実習開始 オリエンテーションと指導者と行動計画確認 プログラム参加 昼休憩 1時間	
午後 13：00 16：00 17：00	プログラム参加 カンファレンス 実習終了	
2 日目	実習内容	備考
午前 8：30	実習開始 指導者と行動計画確認 プログラム参加 昼休憩 1時間	
午後 13：00 16：00 17：00	プログラム参加 カンファレンス 実習終了 掃除・挨拶	

就労継続支援A型 施設見学 （カフェ＆ベーカリー）：1日

時間	実習内容	備考
8：30 9：00 10：00～11：00 12：30 13：30 17：00	学校集合 行動計画確認 移動 <u>埼玉県川越市新宿町1-17-17 カフェ＆ベーカリー</u> 到着 カフェで軽食を取り、施設の様子と働くメンバーの方を観察 帰校し休憩 記録 実習終了	施設担当者には 事前に予定を提 示しておく。 施設担当者が分 かるように学生 は名札を付ける。

単位取得科目：基礎看護学実習、精神看護学概論・保健、精神看護方法Ⅰ・Ⅱ

事前に精神看護学概論、精神看護方法Ⅰ・Ⅱの講義資料を復習し、実習に持参すること。